伝統文化親子教室事業

伝統文化親子教室事業は次世代を担う子供たちに対して、民俗芸能、工芸技術、邦楽、日本舞踊、茶道、華道、囲碁、将棋などの伝統文化、生活文化及び国民娯楽に関する活動を、計画的・継続的に体験・修得できる機会を提供します。日本の歴史と伝統の中から生まれ、大切に守り伝えられてきた伝統文化等を将来にわたって確実に継承し、発展させるとともに、子供たちの豊かな人間性を涵養（かんよう）することを目的とした国の事業です。

文化庁が、全国の伝統文化関係団体を対象に募集をし、有識者審査を経て決定され、教室が開催されます。

伝統文化等に関する活動を行う団体が主体となり、地域に在住する親子を参加対象として、年に一回生徒を募集し、教室が始まります。

当協会の傘下団体であります習志野市茶道協会・習志野市華道協会・お琴三絃園麿友の会・着付け礼法和の会の四団体が、長年にわたり、この事業に取り組んでいます。

（事務局　青山）

習志野市いけ花教室に携わって

習志野市華道協会　小林　理裕

習志野市いけ花教室を開催し、今年で十八年目になります。（令和二年度はコロナ禍で中止）

指導の目標は、いけ花を通し日本の四季の美しさ、生命の大切さ、人を思いやる心、礼儀作法等を学び、日本の伝統文化を愛する豊かな人間性の育成です。

対象者は、小学一年生から中学三年生とその保護者です。

会場は、サンロード津田沼五階の和室になります。

指導回数は、六月から翌年一月まで月一回（土）計八回です。

指導内容は伝統行事を中心に、

六月　開講式、いけ花の基本
七月　七夕の花をいける
八月　夏の思い出をいける
九月　お月見の花をいける
十月　文化祭の作品を準備する
十一月　市民文化祭で発表する
十二月　お正月の花をいける
一月　感謝をこめてプレゼントの花をいける　です

●教室風景

いけ花教室は礼と元気な挨拶から始まります。そして担当講師の指導のもと花材を覚え、基本型に従っていけます。できた

ら創意工夫を加えて仕上げます。子供達の想像力にはいつも驚かされます。最後に「拝見」の作法に従って全員の作品を拝見し、友達の作品からも学びます。子供達は充実感を味わって生き生きとした姿を見せてくれます。

●発表会風景

習志野文化ホールホワイエの会場に、これまで学んだことを活かした個性溢れる作品や親子の連携を楽しんだ微笑ましい合作品が並びます。書きそえてあるテーマを読むと作品を見る楽しさが倍増します。お客様からも励ましのお言葉をいただき自信に繋がったと思います。

小さい頃から伝統文化を体験することによって、日本の良さを身につけ、世界に羽ばたいていってほしいと願っています。

茶道和の心

習志野市茶道協会　大瀬　宗久

人に優しく思いやりの心を大切に明るく豊かな生活が出来ますように、を目的としてお稽古をしております。

教室では小学四年生から中学三年生まで二十名のこども達が熱心に茶道を学んでおり、日頃の喧噪を離れ静寂な茶室に入りますと、こども達は伝統文化の雰囲気を肌で感じ取っているようです。茶道には色々な作法がございます。挨拶の仕方、お茶のいただき方、お点前の仕方や季節ごとのお花の鑑賞、掛け軸の意味、器の種類など生活全般を豊かにしていくものが含まれています。お稽古の中でまず形を覚えて行きます。そして挨拶の大切さ、美しい言葉使い、立居振舞いを学んでいきます。何よりも茶道の基本は、お客様に心を込めて美味しいお茶を差し上げることです。お仲間への思いやりや、人への感謝の気持ちを持つことで内面が磨かれおもてなしの心へと繋がっていくのです。

性格も家庭環境も違うこども達に、丁寧に向き合い個性を伸ばしていくことが大切と感じております。学校生活でも「気配りができ協調性が生まれました」と先生よりお礼の言葉を頂き、卒業生は茶道を続けていますとお話も伺いました。瞳の輝きから将来を担うこども達の成長を私達も嬉しく感じております。

今日、世界の人々との交流が深まる中、日本の伝統文化である和の精神を大切にして、魅力ある人間形成を目指していくべく講師一同更なる精進をして参ります。

習志野市庁舎にて新春コンサートを開催

琴・三絃園麿友の会　会長　布施　園麿

令和三年一月五日、習志野市役所ハミング広場において「伝統文化お琴・三絃親子教室」の生徒による新春コンサートを行いました。コロナ以前に、習志野市社会教育課のご担当者より企画案を頂き、実現したイベントですが、コロナの影響により、開催までには感染対策を含め、多くの担当者様や保護者、スタッフの力添えがありました。昨年のコロナ禍により、イベントの中止が続き、芸術家には厳しい時期が続いております。今回のコンサートに向けてのリハーサルやレッスンも感染対策を万全に取りながら、最低限のレッスン、リハーサルで今できる限りの準備をしてまいりました。このような状況下ですが「レッスンしたい！コンサートで演奏したい！」ということも達の強い気持ち、また、そんなこども達を陰ながら応援してくださった保護者の皆様、常に安全対策を考慮してくださった社会教育課担当者様、皆様のお力を持って誰一人感染者を出すことなく、無事に開催することができました。コンサートでは、「さくらさくら」「日本のわらべ唄」二曲を幼稚園生から高校生の生徒が披露いたしました。また、当日は検温・消毒・マスク着用徹底にご協力頂いたご来場の皆様にも御礼を申し上げます。

演奏後は、沢山の方より温かい拍手とお褒めのお言葉を、また保護者からは、「この冬一番の心に残る体験でした。」「こどもの演奏に感動しました。」など嬉しい感想も頂きました。

まだまだ閉塞感のある日々が続きそうですが芸術が私達には必要不可欠であること、芸術や文化は人々の心に潤いをもたらすものであると改めて感じた次第です。今後も講師一同、幅広い世代に、日本の伝統文化であるお琴・三絃を継承してまいります。

浴衣の着装とマナー

着付け礼法 和の会　会長　片平　一子

「浴衣の着装とマナー」講座は、毎年六月から十一月頃まで全十回の課程をサンロード和室にて開催して参りました。

この講座の着装では、浴衣を一人で着て帯を結ぶことを学び地域の行事などに参加できる事、又、マナーでは挨拶の大切さ、美しい立居振舞、美しい言葉遣い、正しい食事の作法、学校や公の場でのマナー、訪問と応接の心得等を学びます。子供達の豊かな感性を磨き、周囲への優しさや思いやりの心を体得して成長することを目的としております。

毎年、受講者には小学生から大学生まで幅広い年齢層の方がいる一方、親子だけではなく、姉妹や祖母と学ぶ方もいます。子供さん方は、新しく学ぶ事に興味を持ち目をキラキラ輝かせ、いきいきと積極的に学ぶ姿は私達にも響き、時間の経つのも忘れてしまう程です。しかし、おかあ様方が着物の知識が全くない方も多く説明するのも大変です。又、下着や小物の持ち合わせもなく、すべてこちらの貸出しで体験なさる方も少なくありません。

講座終了後に子供さんの感想を聞いてみると「一人で浴衣を着れるようになり嬉しい」「学校で学べない事が学べて勉強になった」「面接の折役立てたい」「学んだマナーを生活に生かし人として成長していきたい」等々ありました。又、大人の方からは、「年のわりには知らない事が多く恥ずかしい」「目からうろこでした」「子供と一緒に学べて楽しかった」「子供が成長したように思う」等々の感想をいただき、私達もやり甲斐を感じ、さらなる意欲が湧いてきました。

着物は長い歴史と伝統に培われてきたもので、それに触れると落ちつき、女らしさ、優しい心をとり戻し、心豊かになれると確信致します。

このようなコロナ禍の中でも感染対策を充分考え開催しておりますので、是非多くのお子様に学んでいただきたいと思っております。